

アジアの母と子をささえる

PHJ 特定非営利活動法人(認定NPO法人)
ピープルズ・ホープ・ジャパン

PHJを支援する



2025年度年次報告

2024年7月1日

2025年6月30日

Annual Report

2024
2025

- | | |
|-------|--|
| 1958年 | 米国 Project HOPE 設立 |
| 1997年 | 民間の「任意団体」プロジェクト HOPE ジャパンとして活動スタート
医療機器・技術支援開始(インドネシア) |
| 1998年 | タイ事務所開設
障がい児・慢性疾患児支援開始(タイ)
口腔衛生教育支援開始(インドネシア) |
| 1999年 | インドネシア事務所開設
HIV/AIDS 予防教育支援開始(タイ)
小児先天性心臓病手術支援開始(タイ)
経済企画庁(現内閣府)より「特定非営利活動法人」として認証される |
| 2001年 | 国税庁より認定 NPO 法人(第 1 号)として認定される |
| 2002年 | 子宮頸がん・乳がん検診推進開始(タイ)
医療機器・技術支援開始(カンボジア) |
| 2003年 | カンボジア事務所開設
母子保健改善活動開始(インドネシア、カンボジア) |
| 2006年 | ピープルズ・ホープ・ジャパンとして独立・改称 |
| 2008年 | ベトナムで HIV/AIDS 予防教育(～2010)、
乳がん早期発見事業(2011～2015)を実施 |
| 2011年 | 東日本大震災緊急・復興支援開始 |
| 2015年 | ミャンマー事務所開設
母子保健改善活動開始(ミャンマー) |
| 2016年 | タイ事務所、インドネシア事務所閉鎖
熊本地震医療支援募金実施(日本) |
| 2017年 | 創立 20 周年 |
| 2021年 | 東日本大震災緊急・復興支援終了 |
| 2022年 | 設立 25 周年 |



アジアの母と子をささえる
特定非営利活動法人(認定NPO法人)
ピープルズ・ホープ・ジャパン

〒180-8750 東京都武蔵野市中町2-9-32
TEL:0422-52-5507
FAX:0422-52-7035
<https://www.ph-japan.org/>

PHJ

People's Hope Japan

PHJ

ピープルズ・ ホープ・ ジャパンは

アジアの途上国の人々の自立に向けて「保健・医療の教育」を中心とした支援活動に取り組む国際協力 NGO です。

1997年1月、米国の国際協力 NGO 「Project HOPE」(1958年設立)の日本法人「プロジェクト・ホープ・ジャパン」として、横河電機、日本ヒューレット・パカード、GEヘルスケア・ジャパンという企業が母体となって設立されました。

1999年8月、特定非営利活動法人の認証を受け、2001年12月に日本で第1号の「認定 NPO 法人」としての認定を受けました。

2006年4月、Project HOPE から独立して「ピープルズ・ホープ・ジャパン」と改称。2011年3月の東日本大震災で国内の緊急・復興支援を開始するとともに、海外支援国の状況に即した事業実施体制を発展させ、2022年1月に設立25周年を迎えました。

すべての人が、生きるための土台となる「健康」で、充実した生活をおくる力となる「希望」をもって暮らせる社会づくりに貢献します。

PURPOSE PHJの存在意義

人とつながり、人と人をつなげる架け橋となって、
誰もが健やかに成長できる世界をつくります。

支援に関わる誰もがうれしい
Happy-Happy コンセプト



▶ VISION PHJの理念

すべての人が健康で希望をもって暮らせるように

▶ GOAL PHJの目的

世界各国の人々に対して、健康及び医療環境の改善と向上に関する事業を行い、国際協力に寄与することを目的としています。

▶ MISSION PHJの使命

自立しようとするアジアの人々が健康に暮らせるように、「保健・医療環境の向上」にむけて教育を中心として自立支援を行います。

国籍や人種や性別を超えて

世界はいま、分断や対立や差別や貧困のなかにあります。世界の各地で戦禍と自然災害が頻発し、日本を含めて軍事費が増額の一途を進む一方で、飢餓や食糧危機が各地で弱者を襲っています。人類の未来が不安にさらされています。

私ども PHJ が掲げる理念は、国籍や人種や性別や年齢に関係なく、すべての人の健康と希望と生活の平穏を目指すものですから、今日の世界の実状とは、遺憾ながら大きくかけ離れていると言わざるを得ません。しかしながら、誰も、何もしなければ、世界はよりよくなつてはいかないでしょうから、私どもは私どもの出来ることを、一步一步前に進めていきたいと思っています。

理事長 神谷洋平



厳しい時代だからこそ、希望を

この度、ピープルズ・ホープ・ジャパンの2025年度アニュアルレポートをお届けできることを、心より嬉しく思います。

この一年間、私たちは多くの困難に直面しながらも、活動地のパートナーや支援者の皆様と手を取り合い、一歩ずつ着実に前進してまいりました。人々の自立を支えるための技能研修や保健教育の支援、緊急時の迅速な支援、そして、コミュニティの連帯を強めるための支援は、すべて皆様からの温かいご支援とご協力があったからこそ実現できたものです。心より感謝申し上げます。

現在、世界はかつてないほどの不安定な状況に直面しています。紛争、自然災害、経済格差といった問題は、人々の生活に深い影を落とし、未来への希望を奪いかねません。しかし、そのような時代だからこそ、私たちは「希望」を抱き続けることの重要性を強く感じています。

私たちの支援は、単にモノやサービスを提供するだけではありません。人々が自らの力で健康を守り、健やかな生活を送るための「学び」を提供し、自らの「力」を引き出すことです。保健教育や技術研修を通じて現地の人々の可能性を引き出し、自らの力で健やかな日々を送り、未来への「希望」を育むこと。これこそが、私たちの活動の根幹をなすものです。

2026年度も、私たちは「誰もが健康で希望をもって暮らせる」社会の実現に向けて、支援活動を進めてまいります。新たな課題にも柔軟に対応し、より効果的な支援モデルを構築していく所存です。

今後とも、変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

代表 藤野康之



PHJ

スタッフ紹介：PHJ で働くスタッフ

東京事務所



カンボジア事務所



ミャンマー事務所



2025 年度 活動TOPICS

海外支援事業 | カンボジア

P7

助産サービスの質の向上を目的に人間的なお産研修を保健センター助産師 50 名に実施しました。さらに、ホスピタリティ研修や助産師同士の連携を強化する助産師会議を通して、助産師が来院者に寄り添ったケアを提供できるよう取り組んでいます。



海外支援事業 | ミャンマー

P9

妊婦健診や安全な出産のための環境を整える活動に取り組んだことから、施設分娩率が 57.0% (2018 年) から 70.7% (2024 年) に上昇し、母子保健サービスの利用が顕著に促進されました。



人材育成活動 | 国内

P11

東京本部事務所に 4 名のインターン生がインターンプログラムに参加し、オンラインイベントの実施や、SNSでの発信など、広報活動に大きく貢献いただきました。また、出張講座や事務所訪問受け入れなどを合計 5 回実施し、PHJ の活動を通して、学生一人ひとりが国際協力についての学びを深める機会を提供しました。



広報活動

P12

活動報告会やインターン生による学びのイベントなどを合わせて 8 回実施し、100 名を超える人に参加いただきました。



ファンドレイジング活動

P12

ミャンマーにおいては 2024 年 9 月に洪水、2025 年 3 月に地震が起き、PHJ の事業地は続けて 2 度も被災しました。PHJ ミャンマー事務所はいずれの災害時にも、緊急支援を実施。クラウドファンディングも立ち上げ、2 回とも目標金額を上回る寄付が寄せられました。



PHJの取り組みについて

Issue

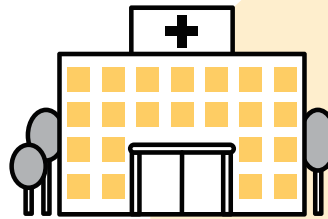
課題



カンボジアやミャンマーで
妊産婦が亡くなる確率は
日本のおよそ50倍。*

* 世界子供白書 2023

医療施設の
数が不足



医療人材が不足
保健サービスが
不十分



地域住民に保健・衛生の
適切な知識が不足
伝統的な風習が根強い

Mission

使命

自立しようとする
アジアの人々が
健康に暮らせるように、
「保健・医療環境の向上」に
むけて教育を中心として
自立支援を行います。



Project

事業

カンボジアやミャンマーでは、医療施設や医療人材の不足、地域住民の保健衛生に関する知識不足などにより、お母さんが出産前後に亡くなるリスクや赤ちゃんが1歳までに亡くなるリスクが未だにとっても高い状況です。今も、そしてこの先も、取り残されがちなお母さんや子どもの健康を改善し、命を守り続けるために、PHJは「教育を中心とした自立支援」に取り組んでいます。現在、PHJはカンボジアとミャンマーの農村地を拠点に、人々が自らの力で保健環境を構築できるよう、人を育てることを中心に以下の3つの点を重視しながら進めています。



現地のニーズに
基づいた地域密着型の
草の根活動

支援を受ける人々の最も近い場所に事務所を置き、現場のニーズ把握や調査はもちろん、現地カウンターパートとの信頼関係の醸成に力を入れています。こうした基盤をもとに、ニーズに合ったプロジェクトを進め、現地の持続的な発展につなげています。

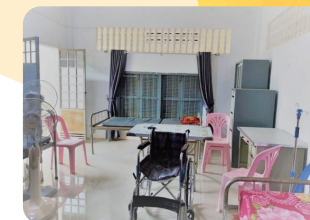


自立化を目指した
医療・保健分野の
「教育」の支援

PHJの理想は地域の人々が自らの手で自分たちの命や健康を守っていくようにすること。そのためには地域の医療従事者が高いスキルを持っていること、地域住民が健康に関する知識を持っていることが重要です。PHJは直接医療を提供するのではなく、医療人材の研修や地域住民の保健教育を進めています。



ハード・ソフトの
両面から継続支援



農村地の医療施設や設備においては、数が不足している、老朽化している、といったハード面の課題も残されています。施設の改修や新設、設備や機器の寄贈などの形で支援を行い、ソフト面だけでなくハード面でもサポートし、包括的に支援しています。



保健ボランティア会議

海外支援事業

Cambodia

カンボジア ソトニクム保健行政区

背景

シェムリアップ州は、多くの妊婦が妊婦健診を受診する一方で（9割以上）、保健施設での出産や医療者の介助による出産が少ない（約5割）という保健課題を抱えています。また、活発な観光業と国際社会からの支援により発展を続ける州都と、それ以外の農村地域との大きな格差が存在します。ソトニクム保健行政区は、妊婦健診受診率、医療者介助分娩率、施設分娩率は州内他地域と比較していずれも最も低く、多くの女性が取り残されている現状があります。

基本データ

■事業名

シェムリアップ州ソトニクム保健行政区における安心安全なお産のための保健システム強化支援事業

■事業目標

①地方病院と保健センターの助産サービスが向上し、連携が強化される②ボランティアの能力が強化され、保健センターとコミュニティの連携が強化される③地域住民の母子保健、特に安全な妊娠・出産に関する知識が向上する

■支援地域

シェムリアップ州ソトニクム保健行政区

■支援対象

【直接裨益者】妊婦 19,662人（3年間推計）、州保健局スタッフ2人、保健行政区スタッフ5人、地方病院スタッフ10人、保健センタースタッフ約100人、保健ボランティア約160人

【間接裨益者】地域住民 約30万人

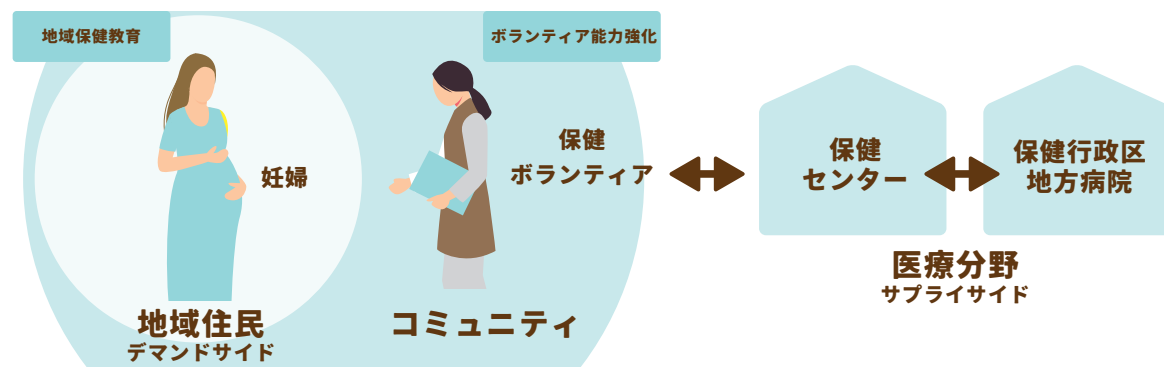
■実施期間

2023年4月4日～2026年4月3日



活動概要

すべての女性の安心安全なお産を促進するために、保健サービスを提供する「サプライサイド：医療分野」と保健サービスを利用する「デマンドサイド：地域住民」、それぞれの取り組みを効果的に統合。さらに双方を連携させる「コミュニティ」の役割をより強化させます。3つの角度から多面的に支援を進めることで、地域の保健システム強化を目指します。



活動報告

2025年度は対象地域のすべての女性が安心・安全に出産できる環境づくりを目指し、シェムリアップ州保健局、ソトニクム保健行政区、地方病院、保健センター、コミュニティと連携し、3つのアプローチに基づく活動を実施しました。

地方病院と保健センターの助産サービスを向上させ、連携を強化する活動

助産サービスの質と連携強化を目的に、助産師会議やホスピタリティ研修、人間なお産研修を実施しました。助産師会議を通してこれまで交流のなかった助産師同士が連絡先を交換し、情報共有や相談が可能となりました。研修を通じて、助産師が妊婦や来院者に対して笑顔で丁寧に応じ、時間をかけて話を聞く姿勢が定着しつつあります。



人間なお産研修

ボランティアの能力を強化し、保健センターとコミュニティの連携を強化する活動

保健ボランティアに対する再研修や会議支援を通じて、保健センタースタッフとの連携が深まりました。ボランティアは自信を持って村で保健教育を実施できるようになり、保健センタースタッフもコミュニティの保健課題や地域住民の声を伝えるボランティアに真摯に耳を傾けるようになったことで、サービスの質向上につながっています。



保健ボランティア会議

地域住民の母子保健、特に安全な妊娠・出産に関する知識を向上させる活動

村での保健教育・啓発活動や家庭訪問を通じて地域住民の母子保健知識が向上しています。村長や区長からは住民の関心と参加が高まっているとの評価があり、農作業などで参加できない人がいれば、学んだ内容を共有する住民も増え、地域内での情報の循環が生まれています。

吸引分娩器の寄贈と技術指導支援

株式会社三幸製作所様より吸引分娩器3台を寄贈いただき、カンボジアの事業地にある病院および保健センターへ納入しました。納入に先立ち、三幸製作所グループ会社の技術者2名が現地を訪問し、医師や助産師を対象にワークショップを通して使用方法の技術指導を行いました。

（日本では吸引分娩器を扱うのは医師のみですが、カンボジアでは助産師も扱います。）寄贈を受けた医師からは、「これまで使用していた手動吸引器は高価で使い捨てのため、負担が大きかった。洗浄・滅菌が可能な今回の吸引器は非常に助かります」との声が寄せられました。



寄贈された吸引分娩器



技術指導の様子



母子保健推進員による家庭訪問

海外支援事業

Myanmar

ミャンマー ネピドー特別行政区 レウエイ郡

背景

2014年から2020年まで、ネピドー特別行政区タツコン郡において、母と子の健康を改善するための支援事業を実施しました。その結果、事業対象地における妊婦健診の受診、保健施設での出産、産後検診の受診という母と子を一体とした継続ケアを促進しました。この取り組みの成果と良好な連携・協働体制による信頼関係により、保健省及びネピドー公衆保健局から、これまでの母子保健サービス改善の支援に加えて、保健システム強化の支援を統合した、包括的な支援の要請を受けました。

現地調査と当局との協議を重ね、事業対象地としてレウエイ郡が選定されました。レウエイ郡は、市街地と農村地が混在する特殊な地域であり、人口の9割は農村地に居住しています。市街地と農村地における妊婦健診・産後検診受診率、医療者による分娩介助率、施設分娩率を比較したところ、これらの基礎的な母子保健サービスの利用状況に顕著な格差があることがわかりました。

基本データ

■事業名

妊産婦と新生児の健康改善のための保健システム強化支援事業

■事業目標

レウエイ郡の母と子が、地域の保健システムが強化されることを通して、適切な保健サービスを利用することで、妊婦の安全な妊娠と出産及び新生児の適切なケアが行われ、その取り組みの成果が他の郡に波及される。

■支援地域

ネピドー特別行政区レウエイ郡

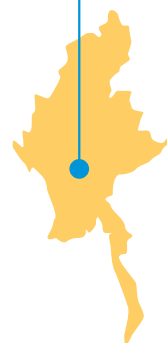
■支援対象

妊婦 4,429 人および新生児 4,429 人
母子保健推進員 682 人
補助助産師 48 人・助産師 52 人
婦人保健訪問員 5 人

■実施期間

2020年12月から2025年12月まで

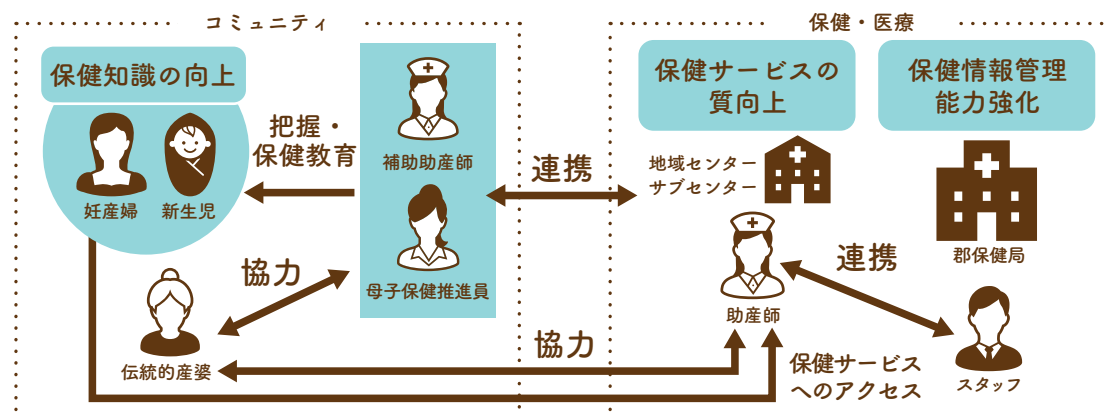
首都：ネピドー
活動地：ネピドー
特別行政区レウエイ郡



活動概要

レウエイ郡の母と子が適切な母子保健サービスを利用して、妊婦が安全な妊娠と出産をむかえ、生まれた赤ちゃんが適切なケアを受けるために、1) ボランティア（補助助産師と母子保健推進員）による母と子の保健サービスへのア

クセスの向上、2) 保健管理情報システムのインフラ整備とレウエイ郡保健局スタッフ及び基礎保健スタッフの能力向上を通じた保健システムの強化、3) 本事業の取り組みの普及促進という3つのアプローチによる活動を実施します。



活動報告

不安定な社会情勢が続く中でも、現地スタッフと事業関係者の安全に配慮しながら、活動を継続しました。レウエイ郡では、地域住民が基礎的な母子保健サービスにアクセスできるよう、助産師の技能向上に取り組むとともに、補助助産師と母子保健推進員の技能向上にも力を入れました。この一年間、現地カウンターパートやコミュニティの協力を得て、村での保健教育や母子保健推進員による妊産婦の家庭訪問、保健施設でのポジティブな出産体験のお話し会を行いました。併せて、新生児用保温装置や聴診器・血圧計、高圧滅菌器などの基礎的な医療器材を供与しました。



補助助産師 スキルモニタリング

また、助産師やボランティアに対する研修を実施するとともに、研修後の継続的なフォローアップを実施し、自立的に活動を継続できる体制を強化しました。これにより、妊婦健診や安全な出産のための環境が整い、住民が安心して医療サービスを受けられるようになりました。これまでの継続的な支援活動により、妊婦健診の受診率が73.4%（2018年）から79.9%（2024年）、また、施設分娩率が57.0%（2018年）から70.7%（2024年）に上昇し、母子保健サービスの利用が顕著に促進されました。



地域医療関係者会議

活動の現場から — あるお母さんの声

出産前からサブセンターの助産師の保健教育に定期的に参加していました。妊婦健診で、超音波検査をしたところ双子を妊娠していることがわかりました。助産師から医師のいる施設での出産を勧められたので、病院で出産しました。出産前から保健教育を受けていたので、赤ちゃんの世話をしっかりすることができました。例えば、赤ちゃんを清潔に保ち、あたたかく快適に過ごせるようにしています。

緊急支援活動

洪水緊急支援活動

2024年9月に発生した洪水の被災者702世帯に衛生用品キットを供与しました。また、井戸の水をくみ上げるためのポンプ3台とポンプの燃料、被災地の衛生活動用の車両借用費用3日間、被災した7保健センターの清掃用品の支援を行いました。

地震緊急支援活動

2025年3月に発生したミャンマー地震の被災地レウエイ郡、タツコン郡、ピンマナ郡にて、組み立て式テント（20基）、ウォーターサーバー（13個）、噴霧器（23個）、感染症抗生物質・包帯・輸液セット（各500個）、井戸ポンプ（1個）を供与しました。



2024年9月の洪水で泥水が流れ込んだサブセンター内部の分娩室

人材育成活動

出張講義・事務所訪問受け入れ

2024年7月に相模原看護専門学校看護学科「災害看護と国際支援」と順天堂大学国際教養学部「グローバルヘルスサービス論」の講義、8月に創価大学法学部「人間の安全保障フィールドワーク」の事務所来訪、10月に上智大学総合人間科学部看護学科「見学実習」の事務所来訪、2025年6月に上智大学総合人間科学部「異文化理解と国際保健活動」の講義を行いました。



埼玉大学の夏季集中講義「異なる文化と出会う・開発人類学調査法」において、カンボジアでのスタディツアーの実施に協力しました。急速な経済成長を遂げるプノンペンにて都市化を体感しながら、内戦の歴史を学ぶために強制収容所だった博物館などを見学しました。その後 PHJ の事業地のあるシェムリアップに移動。8名の参加学生が予め計画した調査内容に合わせて農村に住む人々にインタビューを行い、その内容を PHJ カンボジア事務所で発表しました。初めてのフィールド体験を通して、学生たちは国際協力の現場に触れ、学びを自分のものとして深める機会となりました。



インターン受け入れ

上智大学総合人間科学部の学生2名、東京大学教養学部の学生1名、順天堂大学大学院医学研究科の大学院生1名が、東京本部インターンシッププログラムに参加しました。インターン生がオンラインイベントの企画から実施までを担い、2024年9月に「助産師に聞く! 途上国のお産の現場〜母子を取り巻く保健・医療の現場を比べて〜」、2025年3月に「二つのストーリーから考える途上国での妊娠・出産」を開催しました。登壇者によるトークだけでなく、参加者同士の意見交換も行い、主体的に学びあう時間となりました。



SNSを通じた広報・情報発信にも力を入れ、当団体の「note」も開設。PHJの認知度向上と、活動への理解・共感の促進につなげました。



広報・ファンドレイジング活動

イベント

国際協力への理解と関心を深めるため、2024年8月に「NGO 夜カフェ | カンボジアの農村地の歩き方 NGO スタッフとして海外で暮らす、食べる、話すには。」を対面形式で開催。2024年11月に「悩み多き国際協力の現場のマネジメント」、2025年5月には「世界遺産のそばの母子保健は今。現地駐在員と助産師が語る。」をオンラインと対面のハイブリッド形式で開催しました。



情報の発信と公開

ご支援者への活動の報告として、2024年度アニュアルレポート、ニュースレター「はしをかける」を正会員、賛助会員および関係者・関係団体に(2月・6月)に送付しました。マンスリーサポーター向けのオンライン報告会は2024年10月と2025年5月に実施しました。また、ミャンマー洪水緊急支援においては、オンラインで緊急報告会も実施しました。PHJ ホームページは、適切にメンテナンスするとともに、必要な情報を開示しています。また、Facebook、InstagramといったSNSを活用した情報発信も行っています。

はしをかける

人と人をつなぎ
健康と希望の橋をかける



カンボジア「発展途上国」国際協力事業団（PHJ）
ミャンマー「国際協力事業団」の支援
人財育成（東京本部）国際協力事業団（PHJ）
国際協力事業団（PHJ）国際協力事業団（PHJ）

募金

2024年9月上旬に台風による洪水被害を受け、ミャンマーの活動地で緊急支援を開始。クラウドファンディング「ミャンマー洪水緊急支援 | 農村地の被災者を支え、被災医療施設の復旧へ」では、107名から1,636,000円の寄付が集まりました。さらに、2025年3月末のミャンマー中部地震でも、PHJの活動地が被害を受けたため緊急支援を実施。「ミャンマー地震緊急支援 | 被災地ネピドーで直接支援を届けます」には、163名から2,422,000円の寄付が寄せられました。



恒例のカレンダー募金では、カンボジア、ミャンマーと武蔵野市の子どもたちが描いたおとぎ話の絵をもとに「アジアのおはなしカレンダー 2025」を壁掛けと卓上型で制作。ご寄付のお礼に配布しました。また三鷹国際交流フェスティバルに出展し、カレンダーを通して PHJ を知っていただく機会となりました。書き損じハガキや未使用切手・金券のご寄付は、2024年12月から2025年3月まで第3回目の回収強化キャンペーンを実施し、129,642円のご寄付となりました。



地域との連携

武蔵野市教育委員会から武蔵野市立第一中学校「開かれた学校づくり協議会」の委員として PHJ スタッフが推薦され、学校運営のパートナーとして協議会に参加しました(2023年5月から継続)。2024年7月に同校の中学二年生対象に「職業講話」を行いました。

募金の報告・
ご支援やご協力者の紹介

PHJの活動は、個人賛助会員 664 名と、法人賛助会員 114 法人による会費、そして多くのご支援者様によるご寄付や様々な募金により支えられています。

■ 2025年度の主な募金

●クラウドファンディング

「ミャンマー洪水緊急支援 | 農村地の被災者を支え、被災医療施設の復旧へ」 1,636,000 円

「ミャンマー地震緊急支援 | 被災地ネピドーで直接支援を届けます」 2,422,000 円

●マンスリー募金

「こんにちは！お母さん募金」 230,000 円 「READYFOR マンスリー募金」 96,000 円

●チャリティカレンダー 1,905,000 円

●書き損じハガキ 129,642 円 ●Yahoo ネット募金 115,338 円

補助金・助成金	業務委託事業
●外務省	●JICA
「日本 NGO 連携無償資金協力」を通じてミャンマー「ネピドー特別行政区レウェイ郡における妊産婦と新生児の健康改善のための保健システム強化事業」を実施しました。	JICA 草の根技術協力事業としてカンボジア「シェムリアップ州ソトニクム保健行政区における安心安全なお産のための保健システム強化支援事業」を実施しました。
スポンサープロジェクト	
アイロボットジャパン合同会社 (2025 年 2 月)	公益社団法人 全日本病院協会の会員病院 219 病院へ、空気清浄機 KilaaraTM（クラアラ）730 台を寄贈いただきました。
大塚製薬株式会社 (2024 年 9 月)	ミャンマーの「母子保健支援事業」を支援いただきました。
小野薬品工業株式会社 (2020 年より継続支援)	ミャンマーの「妊産婦と新生児のための保健システム強化支援事業」をご支援いただきました。
株式会社三幸製作所 (2025 年 3 月)	カンボジアの事業地内の病院および保健センターに、吸引分娩器 3 台の寄贈および技術支援いただきました。
成田コスモポリタンロータリークラブ (2009 年より継続支援)	カンボジアの「母子保健支援事業」をご支援いただきました。
横河商事株式会社 (2024 年 10 月)	カンボジアの「母子保健支援事業」をご支援いただきました

●寄付型自販機設置によるご支援

現在 50社の企業・団体に合計 100 台の寄付型自販機を設置していただいています。
2025年度の寄付額は1,523,251円 となりました。

●カレンダー名入れによるご支援

株式会社イノメディックスより PHJ チャリティカレンダーに名入り印刷をしてご支援いただきました。

●特別支援

横河電機株式会社には、PHJ 設立時より、構内施設の利用や通信費、賛助会費などを
通してご支援いただ いています。

■加盟団体・ネットワーク

●国際協力 NGO センター

●NGO・外務省定期協議会「連携推進委員会」

●GII/IDI に関する外務省 /NGO 定期懇談会

●SDGs 市民社会ネットワーク

PHJ 賛助会員企業・団体 (116)			
社会医療法人財団慈泉会相澤病院	社会医療法人財団蓮仙会恵寿総合病院	帝国通信工業株式会社	フルタカ電気株式会社
株式会社あさの	向洋電機株式会社	テクマトリックス株式会社	株式会社プロネクス
アズビル株式会社	国際チャート株式会社	株式会社電通総研	医療法人社団直和会平成立石病院
アナログ・デバイセズ株式会社	国華電機株式会社	株式会社電陽社	株式会社堀場製作所
社会医療法人春回会井上病院	サクラグローバルホールディング株式会社	株式会社東海チャートプロダクツ	株式会社松田計装工業
株式会社イノメディックス	社会医療法人聖医会サザン・リージョン病院	東京計装株式会社	有限会社丸島製作所
岩塚製菓株式会社	株式会社佐藤製作所	東京建物株式会社	株式会社丸新プロテック
株式会社インテック	三信電気株式会社	東京電機産業株式会社	株式会社ミツハシ
医療法人社団永生会永生病院	サントリービバレッジソリューション株式会社	東銀リース株式会社	南九州向洋電機株式会社
エーザイ株式会社	株式会社ジェイ・エム・エス	東邦ホールディングス株式会社	株式会社村田製作所
NTT ファイナンス株式会社	JAM 横河電機労働組合	東陽工業株式会社	株式会社牟礼精密
株式会社エフタイム	シカデン株式会社	株式会社ナカタニ	名港海運株式会社
株式会社エム・アイ・ビー	株式会社島津製作所	株式会社ナカノフドー建設	明治電機工業株式会社
オイレス工業株式会社	ジャパシシステム株式会社	ナップ株式会社	株式会社八神製作所
社会医療法人祥和会脳神経センター大田記念病院	医療法人財団寿康会寿康会病院	社会医療法人恵和西岡病院	八洲貿易株式会社
大塚製薬株式会社	正田醤油株式会社	西川計測株式会社	山崎製パン株式会社
株式会社オーバー	昭和アステック株式会社	株式会社日清製粉グループ本社	横河グループ福祉センター
大豆生田金属株式会社	新川電機株式会社	株式会社ニッセイコム	横河計測株式会社
オグラ宝石精機工業株式会社	株式会社新進	株式会社日本 HP	株式会社横河建築設計事務所
社会医療法人祐愛会織田病院	株式会社すかいらくホールディングス	日本新薬株式会社	横河商事株式会社
株式会社オメガシミュレーション	有限会社菅沼製作所	日本軽金属株式会社	横河ソリューションサービス株式会社
株式会社オルカ	住友電気工業株式会社	日本ヒューレット・パッカード合同会社	横河ソリューションサービス労働組合
特定非営利活動法人 海外医療機器技術協力会	住友電装株式会社	萩原電気ホールディングス株式会社	横河電機株式会社
カシオ計算機株式会社	株式会社セールスフォース・ジャパン	株式会社ビーアンドエフ	横河東亜工業株式会社
株式会社キッツ	社会医療法人財団石心会	菱野金属商事株式会社	横河バイオニクス株式会社
株式会社紀文食品	ゼブラ株式会社	フクダ電子株式会社	株式会社横河ブリッジホールディングス
キャノン株式会社	公益社団法人全日本病院協会	富士通株式会社	横河マニユファクチャリング 株式会社
京西テクノス株式会社	第一三共株式会社	富士フィルム医療ソリューションズ株式会社	横河レンタ・リース株式会社
クリナップ株式会社	太陽計測株式会社	富士フィルムビジネスイノベーション株式会社	菱洋エレクトロ株式会社

協力企業・団体 (35)			
アイロボットジャパン合同会社	介護老人保健施設さくら	日油株式会社	ヤフー株式会社
医療法人久盛会秋田緑ヶ丘病院	株式会社 三幸製作所	日経ニュービジネス株式会社	株式会社やまびこ 横須賀事業所
医療法人敬愛会 リハビリテーション天草病院	株式会社キッツエスジーエス	日本ヒューレット・パッカード労働組合	横河計測人財総務部募金係
株式会社 イクヨ	社会福祉法人 春園会	株式会社 ビース・イン・ツアー	株式会社横河システム建築
医療法人社団 永生会	新若葉会	ヒューレット・パッカード・エンタプライズ従業員募金 (Benevity)	横河商事株式会社 中部支社
OKI サーキットテクノロジー株式会社	住友ファーマ株式会社	医療法人社団むすびの会 ほりメンタルクリニック	横河ソリューションサービス株式会社関西支社
小野薬品工業株式会社	中外製薬労働組合	一般財団法人 松本記念財団	横河マニユファクチャリング株式会社 甲府事業所
医療法人瑞穂会 川越リハビリテーション病院	東京エレクトロンデバイス株式会社	社会医療法人志仁会 三島中央病院	株式会社リンガーハット
キッコーマン株式会社	成田コスモポリタンロータリークラブ	株式会社三井ハイテック	

※協力企業・団体とは過去 3 年間に 5 万円以上のご寄付をいただいた企業・団体です。

2025 年度決算報告（2024年7月1日～2025年6月30日）

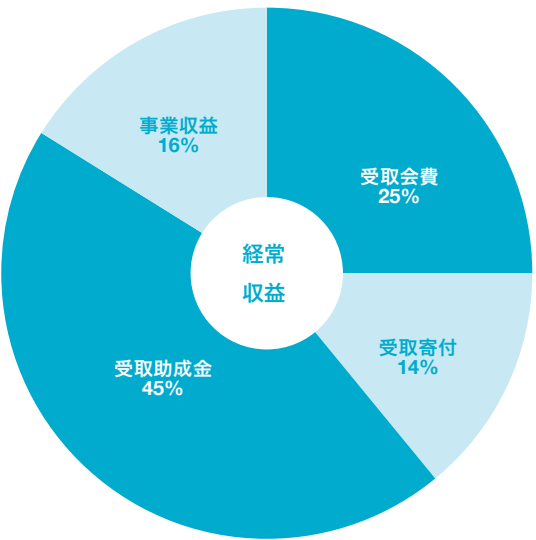
貸 借 対 照 表			
[税込] (単位：円)			
2025年 6月 30日 現在			
資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		預 り 金	525,396
現 金	7,089	預り金（専門家等）	17,152
普通 預金	68,305,914	仮 受 金	152,000
海外現預金	9,434,575	流動負債 計	694,548
現金・預金 計	77,747,578	負債合計	694,548
(その他流動資産)		正 味 財 産 の 部	
未 収 金	1,404,195	【正味財産】	
その他流動資産計	1,404,195	前期繰越正味財産額	77,347,017
流動資産合計	79,151,773	当期正味財産増減額	1,110,208
		正味財産 計	78,457,225
		正味財産合計	78,457,225
資産合計	79,151,773	負債及び正味財産合計	79,151,773

2025 年度決算および 2026 年度予算			
(単位：円)			
科 目	2025 年度		2026 年度
	予算	決算	予算
Ⅰ．経常収益			
1. 受取会費	25,500,000	26,080,000	25,500,000
団体賛助会費	22,000,000	22,575,000	22,000,000
個人賛助会費	3,500,000	3,505,000	3,500,000
2. 受取寄付金	10,300,000	13,879,355	16,900,000
法人寄付金	2,000,000	5,960,100	6,400,000
一般寄付金	8,300,000	7,919,255	10,500,000
3. 受取助成金等	34,460,000	45,673,855	51,480,000
助成金	2,000,000	999,000	2,000,000
補助金	32,460,000	44,674,855	49,480,000
4. 事業収益	29,990,000	16,659,000	37,490,000
受託事業収入	29,990,000	16,659,000	37,490,000
5. 雑収益（利子等）	0	38,569	0
6. 商品寄付	0	126,674,257	0
経常収益合計	100,250,000	229,005,036	131,370,000
現金	100,250,000	102,330,779	131,370,000
商品	0	126,674,257	0
Ⅱ．経常費用			
1. 事業費	96,730,000	87,674,868	106,510,000
カンボジア支援費	33,545,000	36,837,487	36,790,000
ミャンマー支援費	46,215,000	31,642,035	50,520,000
広報・募金活動費	16,970,000	19,195,346	19,200,000
2. 管理費	12,650,000	13,545,703	11,900,000
3. 商品寄付	0	126,674,257	0
経常費用合計	109,380,000	227,894,828	118,410,000
現金	109,380,000	101,220,571	118,410,000
商品	0	126,674,257	0
Ⅲ．当期繰越正味財産増減額			
現金	-9,130,000	1,110,208	12,960,000
商品（在庫）	0	0	0
Ⅳ．前期繰越正味財産			
現金	77,347,017	77,347,017	78,457,225
商品（在庫）	0	0	0
Ⅴ．次期繰越正味財産			
現金	68,217,017	78,457,225	91,417,225
商品（在庫）	0	0	0

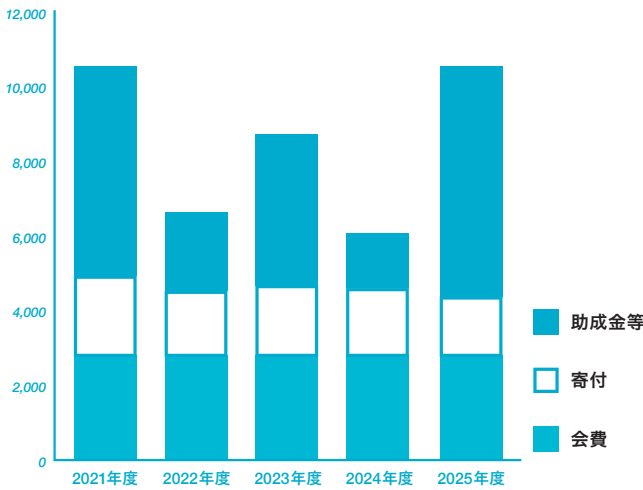
2025年度経常収益

受取会費は 2,608 万円となり昨年度から増加しましたが、受取寄付は 1,387 万円で、法人寄付と一般寄付ともに減少しました。受取助成金等は 4,567 万円で、助成金1件(99 万 9 千円)の獲得と補助金が 4,467 万円となりました。事業収益はカンボジア・シェムリアップ事業で 1,665 万円の収入となりました。

2025 年度決算・経常収益内訳
(合計 10,233 万円、現金のみ)



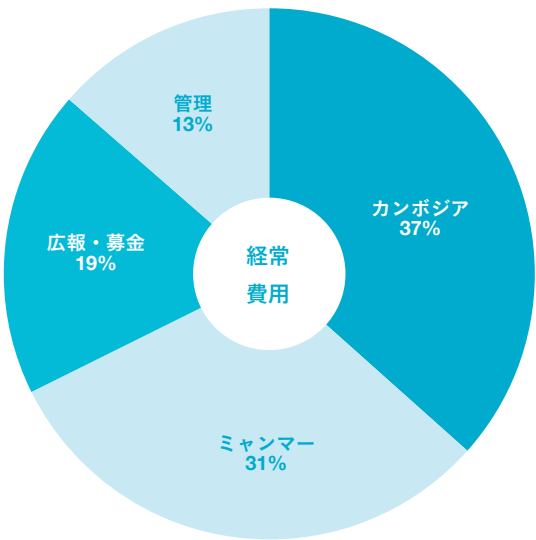
経常収益 (万円) の推移



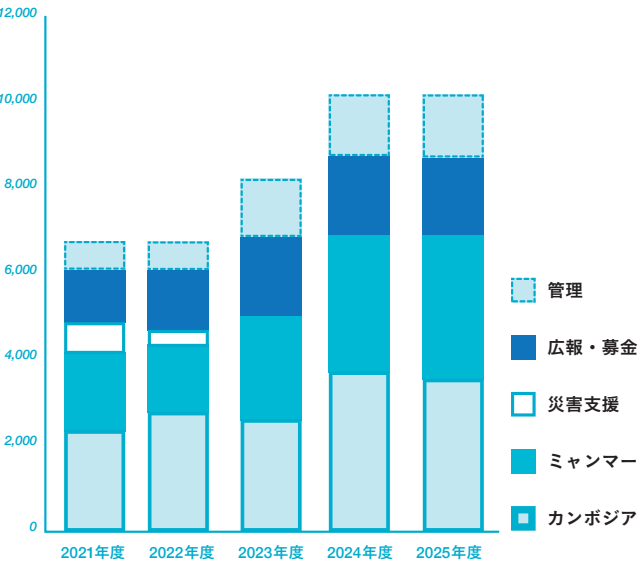
2025年度経常費用

カンボジア支援事業費が 3,684 万円（除く商品寄付）、ミャンマー支援事業費は 3,164 万円となりました。カンボジア支援事業では追加的な活動を実施した影響で支出が増え、他方、ミャンマー支援事業では計画された人員の採用に至らず、また、現地通貨チャット安の影響で支出が少なくなりました。広報・募金活動費は 1,920 万円、管理費は 1,355 万円となりました。

2025 年度決算・経常費用内訳
(合計 10,122 万円、現金のみ)



経常費用 (万円) の推移



寄付で支援する

ピープルズ・ホープ・ジャパンは認定 NPO 法人ですので、当団体に対する支援は税の優遇措置の対象となります。

●継続して寄付

種類	寄付額	特典
法人賛助会員	 年 20 万円から 支払い方法：口座振込 お申込み：PHJ のWEB サイトより	担当が年 1 回活動報告に訪問。 従業員様向けの報告会も開催可。 ・ニュースレター（年 2 回） ・アニュアルレポート（年 1 回）
個人賛助会員	 年 3000 円から 支払い方法：クレジットカード、 口座振替 お申込み：PHJ の WEB サイトより	・ニュースレター（年 2 回） ・アニュアルレポート（年 1 回）
READYFOR マンスリーサポーター アジアの母と子の 命を守る PHJ サポーター募集！	 月 800 円から 支払い方法：クレジットカード お申込み：READYFOR の WEB サイトより	年 2 回オンライン報告会を開催します。 ・活動レポート（年 2 回） ・ニュースレター（年 2 回） ・アニュアルレポート（年 1 回）・カレンダー
こんにちは！ お母さん募金	 月 500 円から 支払い方法：クレジットカード お申込み：PHJ のWEB サイトより	・活動レポート（年 2 回） ・ニュースレター（年 2 回） ・アニュアルレポート（年 1 回） ・カレンダー

●今、寄付する

いつでも、自由にご寄付いただけます。PHJ の活動全般を支援いただくことができます。

一般寄付	 支払い方法：クレジットカード、口座振込
------	--

銀行振込先
みずほ銀行 三鷹支店（普） 1357971 ピープルズホープジャパン
三菱 UFJ 銀行 三鷹支店（普） 1524692 ピープルズホープジャパン
ゆうちょ銀行（記号） 10120（口座番号） 99472271 ピープルズホープジャパン

モノで支援

古本や書き損じ ハガキで支援する	 ご自宅にある読み終えた本や、書き損じたハガキ、未使用の切手などが、PHJ の寄付になります。これらの物品は提携企業にお送りいただくと、査定され、買取額が寄付として PHJ の活動に活用されます。
---------------------	--

ピープルズ・ホープ・ジャパン役員 2025 年 9 月 6 日現在

理理事長	神谷 洋平	横河商事（株）元取締役・常務執行役員
副理事長	田中 滋	埼玉県立大学理事長、慶應義塾大学名誉教授
理事	飯塚 雅樹	日本ヒューレット・パッカード（株）元取締役・専務執行役員
理事	石川 雅一	南生田レディースクリニック院長、北里大学 産婦人科 非常勤講師
理事	伊藤 公平	慶應義塾 塾長
理事	神野 正博	（公社）全日本病院協会 会長、（医）董仙会 恵寿総合病院 理事長
理事	小田 晋吾	日本ヒューレット・パッカード（株）元代表取締役社長
理事	中島 康雄	（医）NIDC セントラルクリニック世田谷 院長、聖マリアンナ医科大学 名誉教授
理事	藤野 康之	（特非）ピープルズ・ホープ・ジャパン代表 兼 海外事業部長
理事	松本 謙一	（特非）海外医療機器技術協力会 会長、（一社）日本医療機器産業連合会 副会長、 サクラグローバルホールディング（株）代表取締役会長
理事	村井 哲也	横河ソリューションサービス（株）元代表取締役社長
理事	安川 健司	日本製薬団体連合会 会長、アステラス製薬（株）代表取締役会長
理事	安田（岡本）美代子	順天堂大学 前任准教授：国際教養学部 / 大学院国際教養研究科 グローバルヘルスサービス領域、大学院医学研究科 グローバルヘルスリサーチ研究室
理事	山本 千晶	武蔵野市民
理事	吉野 八重	上智大学 准教授：総合人間科学部 看護学科
監事	吉川 光	横河電機（株）取締役

団体概要 2025 年 9 月 6 日現在

団体名	特定非営利活動法人 ピープルズ・ホープ・ジャパン 英文名：PH-Japan
住所	〒180-8750 東京都武蔵野市中町 2-9-32
理事長	神谷 洋平
代表	藤野 康之
スタッフ数	東京本部スタッフ：12 名（内フルタイム 5 名） 海外駐在スタッフ、現地スタッフ：20 名
賛助会員数	個人：約 664 人 法人：114 団体
海外事務所所在地	カンボジア、ミャンマー

